

マデダ文のガイドラインとアノテーション

勘場千夏・毛谷村詩織・是枝美羽・立花千夏・米寄俊太 (九州大学文学部)

上山あゆみ (九州大学大学院人文科学研究院)

1. はじめに

マデダという語はマデに語彙素「ダ」が続いたものである。寺村 (1991) や沼田 (1992) をはじめとして、「マデ」の用法に関する研究はなされてきたが、古川 (2020) においては、動詞に後続するマデに「ダ」が続いた場合の用法についての分類案が提示された。これを受けて我々は、名詞や動詞に後続するマデダの用法についてより全般的で有用性のある分類が作れるのではないかと考えた。本発表では、マデに語彙素が続いたものの用法についての分類ガイドラインを作成するにあたってどのような困難な点があったかを、代表的な例文を説明しつつ明らかにしたのち、作成したガイドラインに沿って『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)によってアノテーションを試みた結果について述べる。

2. マデダの分類ガイドライン

まずここで、提案する分類ガイドラインを示し、それぞれの分類について、代表的な例文を述べる。

①	動作の到達点	動作が終了する場所などを表す。
②	範囲の終点	物事や空間の範囲を表す。「…カラ～マデ」という形で用いられやすい。

③	時間の終点	時間的な範囲を限定する。マデの直前が動詞の場合、動詞の後ろに「時」を補うことができる。
④	行為の限界	様々な行為の中で、要件にあてはまる行為を限定する。
⑤	意外な程度	ある状況における程度を示す指標となり、意外性を含む。ホドやクライと置き換えが可能。
⑥	決意選択	発話者が自分の行為を選択しようとする表現である。条件節を伴う場合が多い。
⑦	限定	行為や事象を意思表示を含まず客観的に限定している。ダケと置き換えることが可能。
⑧	慣用句的表現	指示語が具体的な物事を指しておらず、慣用句的に用いられる。

3. 代表的な例文

以下、記載のない例文はすべて『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)からの引用とする。

3.1. 「①：動作の到達点」について

「①：動作の到達点」の代表的な例文は、次に示すとおりである。

- (1) 飛行機に乗るのは東京までだ。[作例]

動作が終了する場所を表しているマデダ文がこの用法に含まれる。(1)では、飛行機に乗るという動作の終了点が東京であると示されている。

3.2. 「②：範囲の終点」について

「②：範囲の終点」の代表的な例文は、次に示すとおりである。

- (2) a. 整理券は一人3枚までだ。
b. 情熱も努力も0から100までだ。[作例]

この用法では物事や空間の範囲を表す。
また、(2b)のように、「…カラ～マデ」という形で用いられやすい。

3.3. 「③：時間の終点」について

「③：時間の終点」の代表的な例文は、次に示すとおりである。

- (3) a. 午後5時までに課題を終わらせる。[作例]
b. 親が熱心に教育するのは、子供が大学進学を実現するまでである。[作例]

(3b)のように、マデの直前が動詞の場合、動詞の後ろに「時」を補うことができる。

「時間の終点」は、古川(2020)の「時点の限界」をもとに作成したが動詞に接続するマデダ文だけでなく、時間的な範囲を限定するマデダ文はすべて含むという点で違いがある。

3.4. 「④：行為の限界」について

「④：行為の限界」の代表的な例文は、次に示すとおりである。

- (4) 山仕事というのは木を植えて、伐って丸太にするまでだ。[作例]

(4)では、山仕事という行為は木を植えて育てて、伐って丸太にするところまでという限界を表している。

3.5. 「⑤：意外な程度」について

「⑤：意外な程度」の代表的な例文は、次に示すとおりである。

- (5) 親に会うまでだから彼女との付き合いは遊びのはずがない。[作例]

(5)では、彼女との付き合いという状況において親に会う程度という指標を示している。また、この用法ではマデダをホドやクライに置き換えることが可能である。

3.6. 「⑥：決意選択」について

「⑥：決意選択」の代表的な例文は、次に示すとおりである。

(6) あなたが何もしないのなら私がするまでだ。[作例]

(6)では、自分のこれからする行為を選択している。この例文のようにこの用法では条件節が伴う場合が多い。

3.7. 「⑦：限定」について

「⑦：限定」の代表的な例文は、次に示すとおりである。

- (7) a. 自分は指示に従ったまでだ。[作例]
b. 用事は終わったので、あとは歩いて帰るまでだ。[作例]

(7a)と(7b)ではどちらも行為に対して自分の意思表示は含まれておらず、マデの直前を客観的に限定している。また同じくどちらの例文もマデをダケに置き換えても文意が通る。

3.8. 「⑧：慣用句的表現」について

「⑧：慣用句的表現」の代表的な例文は、次に示すとおりである。

- (8) a. もう、これまでだ。
b. そういう運命になってしまったと言われればそれまでだ。[作例]

指示語に接続するマデダ文で接続する指示語が具体的な物事に置き換え不可能である時にこの用法となる。

4. アノテーション結果

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)から、「マデ」に語彙素「ダ」が後続する形を含んだ例文500件を抽出し、上記の分類ガイドラインにしたがって実際にアノテーションを行った。

九州大学文学部の学生2人がそれぞれアノテーションを行い、その結果からカップ値を計算したところ、0.785という値を得ることができた。ぶれの少ないある程度信頼性のあるガイドラインを作成することができたことになる。これからぶれのあった箇所を中心に、さらに検討を重ねていきたい。

5. 参考文献

- 小西正人(2019)「増分タイプのマデ文について」『北海道文教大学論集』第20号,1-17
- 寺村秀夫(1991)「取り立て一係と結びのモード」『日本語のシンタクスと意味Ⅲ』第3巻, 東京：くろしお出版
- 沼田善子(1992)『「も」「だけ」「さえ」など：とりたて』, 日本語文法セルフ・マスターシリーズ5. 東京：くろしお出版
- 沼田善子(2000)「とりたて」『日本語の文法2 時・否定と取り立て』東京：岩波書店. 153-216
- 古川佳穂(2020)「動詞に後続するマデダの意味と分類」卒業論文,九州大学
- 藪崎淳子(2016)「マデの諸用法の相関関係」『國學院雑誌』第117巻第四号